



令和 5 年度 子育てSOS講演会



日 時:11 月 22 日(水曜日)19 時 00 分～20 時 30 分

会 場:沼津市立図書館 4 階視聴覚ホール 参加人数 84 名

主 催:沼津市・沼津市要保護児童対策地域協議会 共催:沼津市民生委員児童委員協議会、沼津里親会

演 題:地域で子どもを育てるために ～先駆的事例と歴史から学ぶ～

講 師:白井千晶(ちあき)氏(静岡大学 人文社会科学部 社会学科 教授)

【かつての日本の共同養育・他家養育】 ● 疑似親、疑似兄弟取上げ親・拾い親、名づけ親、乳付親、等。職親等。※「親」にとってもメリットもある。葬走、社会的威信、有力な家と関係作り、親族との強固な結びつきがあった。血が繋がっていてもいなくても、育てても育てていなくても。人生を肯定的に生き家族の多様性を受入れる教育がゆき届ける社会へ。お話では、血の繋がりを求める家族観や、自分自身の幸せの在り方を見つめ直すことの大切さにも触れて、育てやすい、生きやすい社会とは。改めて考え、地域で子どもを育てるため、先駆的事例と歴史から学ぶことで、かつての日本の暮らし 方をプロジェクターにて説明。



講演前の風景



講師 白井千晶先生

【直屋(すこや)旧北村家住宅平面図、間取りの説明・江戸時代の長屋】

庶民が暮らす裏長屋は、井戸やトイレ、路地などの生活空間を共有し、2 軒世帯が背中合わせに住む棟割り形式の平屋が普通。一軒の広さは 9 尺×二間・三坪。一軒の広さの住宅が基本で共同スペースがお互いにコミュニケーションの場所になっていた。

【同間会上野下アパートメント】 は、関東大震災後の復興事業として建てられコンクリート造りで 16 棟建てられ前庭には井戸、水場、ポンプあり、アパートの住民の井戸端談笑する声が聞こえるようです。四階は单身者用の水場、トイレになっています。

【5IC 型住宅】

1951 年に計画された公営住宅標準設計のひとつの型の名称。第二次世界大戦後、住宅不足が深刻となり、早期に大量に生産できる住宅が求められた。政府はそれまでの住宅品質を底上げするため、耐火性能があり、狭い土地でも多くの人が暮らせる鉄筋コンクリートの住宅の建設に乗り出した。(現在高齢化進み空き家が目立つ)

【三重県答志島・寝屋制度】 答志地区では男子が 15 歳になると数人の仲間で相談し、家の広さや人柄などの条件を考慮して寝屋親を頼みに行く習慣がある。寝屋親は寝屋として自宅の一室を貸し与え、子供たちは自宅で夕食を済ませると寝屋に集まり、寝屋子として寝泊りしながら時間を共有するそして、この仲間たちは実の兄弟同様の結束を固める。寝屋子 27 歳で解散するが、その後も生涯親密な関係を続ける。かつて三重県答志島、現在もある寝屋制度。

町並み西日本の漁村で見られたが衰退し現在では答志地区においてのみであり、伝統的な習慣を残している点で貴重である。



【共住プロジェクト】 高齢者の空き室に低廉な負担で若者が同居・する次世代下宿

① 放課後の居場所(毎日) おもしろ荘まちなか保健室 ② 毎週金曜日こども食堂(0 円こども食堂) ③ 隔週土日冒険遊び場(たごっこパーク) ④ 毎月1回(まちの立ち寄り処おもしろ荘) ⑤ 子育て勉強会(ワンコインゼミ) ⑥ 24 時間子ども SOS 電話 ⑦ 里親、緊急一時保護 ⑧(シェアハウス)その他、施設があり。